

第 11 号 全国自立援助ホーム協議会 たより

編集者
新井 秀親 (夢舞台)
松木 良介 (経堂 憩いの家)
大橋 達也 (吾が家)
野原 知子 (マルコの家)
発行日：平成 30 年 10 月 25 日

この号の内容

1 ページ

全国自立援助ホーム協議会 第 25 回記念
愛知・名古屋大会
のお知らせ

2 ページ

第 11 回
全国自立援助ホーム長
研修会・総会 報告

3・4 ページ

女性スタッフ研修報告

5 ページ

山形県
シンポジウム報告

6 ページ

お知らせ

全国自立援助ホーム協議会 第 25 回 記念
愛知・名古屋大会の
お知らせ

全国自立援助ホーム協議会 第 25 回記念 愛知・名古屋大会

2018 年 11 月 5 日(月) ～6 日(火) 会場：キャッスルプラザ

自立援助ホームきょうわ (名古屋市)

施設長 中上 純二

日頃より、子ども達の就労、就学支援及び生活援助にご尽力のこと、深く敬意を表します。また、今夏の豪雨、台風、地震等災害で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。1 日も早く復興され、日常を取り戻されることを祈っております。

この度、第 25 回記念 全国自立援助ホーム協議会 愛知・名古屋大会の実行委員長を拝命いたしました自立援助ホームきょうわ (名古屋市) の中上純二です。

この重責を微力ながらも全うするには、先人方々の大変な努力、そして積み上げられた功績を自分なりに理解することであるという思いに至りました。

平成 5 年 9 月、全国自立援助ホーム連絡協議会 (以下、連絡協議会、現：全国自立援助ホーム協議会) として発足された当時、ホーム数は約 10 ホーム程度。まだ制度的にも財政的にも厳しい環境の中、各ホームの方々が連携してより良い運営を目指そうと、「連絡協議会」を立ち上げられました。

連絡協議会草創期を想像すると、その時々時代の背景や社会に翻弄される子どもたち、そして各ホームの先人の方々は、懸命に自立援助ホームとしてできる支援、時にはホームの範疇を超えた支援を行っておられたのでしょうか。思うような支援に結びつかないこともあったり、子どもに教えられたり、気づかされたり・・・、こうした各ホームの「子どもの自立を願う」絶え間ない努力があって今日があることを、本記念大会で、今一度、噛み締めることができればと思っています。

中国には「水を飲むとき、井戸を掘った人を忘れてはならぬ」ということわざがあります。第 1 回目を開催された先人の皆様の思いを忘れることなく、また感謝の念をもって、第 25 回記念大会を迎えたいと思います。

現在、ホーム数は 160 を超えています。十分にソーシャルアクションの団体としてのスケールになりうると思います。本記念大会にて自立援助ホームの新たな可能性や求められる役割を皆さんと研鑽し、発信できる機会となることを願っています。

お気をつけてお越し下さい。

第 11 回
全国自立援助
ホーム長
研修会
総会報告

第 11 回 全国自立援助ホーム長研修会・総会報告

月日：2018 年 4 月 23 日（月）～24 日（火）

会場：東京ビッグサイト

次第：

1 日目 ホーム長研修会

・開会及びあいさつ（協議会会長 平井 誠敏 氏）

・研修 1

「自立援助ホームの経営管理者に求められる役割
～関係法令に基づく施設経営等について～」

講師：厚生労働省家庭福祉課長

全国自立援助ホーム協議会会長 平井 誠敏 氏

・研修 2

「職員のメンタルヘルスと働き方：子ども・職員双方の人権保障の課題」

講師：日本福祉大学 准教授 堀場 純矢氏

・研修 3

「スーパーバイズについて」

講師：山梨県立大学 教授 山田 勝美氏

2 日目 総会

・2017 年度 事業報告・決算

・2018 年度 事業計画・予算、国家予算要望について、その他

・閉 会

*2017 年 6 月の厚生労働省通達により、民間児童養護施設の職員の処遇改善が
なされることとなりました。自立援助ホームが該当となるのは以下の通りです。

(処遇改善加算Ⅰ) 「夜間を含む業務を担う常勤職員

(1 日 6 時間以上、月 20 日以上勤務する者)」

(処遇改善加算Ⅴ) 「対象となる研修を修了した指導員」 (各ホーム 1 名まで)

ホーム長研修では処遇改善加算Ⅴの必要要件研修として「自立援助ホームの
マネージメント」「職員へのスーパーバイズ」「職員のメンタルヘルス」を
含む研修を実施いたしました。

全国自立援助ホーム協議会 役員交代のお知らせ

当協議会 事務局長が今年度より、下記の通り交代となりましたので、
お知らせいたします。

旧事務局長	新事務局長
恒松 大輔 (あすなる荘)	松本 耕造 (長谷場新宿寮)

【女性スタッフ研修会 報告】

7月2日（月）～3日（火）大宮ソニックシティ

次第

1日目

- ・講義「知的・発達等のハンディを抱え生き辛さのある利用者への援助の在り方～女性スタッフとしてできる援助～」
- ・講師 社会福祉法人「埼玉育児院」理事
母子生活支援施設開設準備室長 高倉 富美子氏

- ・グループディスカッション

2日目

- ・各グループごとにテーマを決めてのグループ討議

「全国女性スタッフ研修に参加して」

丸亀おひさま荘(香川県) 塚原 育美

高倉富美子氏による「女性スタッフとしてできる援助」という内容で行われました。そのグループ討論では男子ホームに入る女性職員は「自分たちは女性と思っただけではない。」ということや「女性の役割として、母性的な関わりをすることで子どもが暴力的になってしまう。」等の意見を聞きました。

講師の方の話の中で最も印象に残った言葉があります。まず、子どもの行動には必ず理由があり、話を沢山聞くことが大事である。しかし共感するが、巻き込まれないようにしなければならないこと。自分の立ち位置を考えなければならないこと。また、自分の苦手な部分を頑張らず他の職員に助けを求めることが大事であるということを知りました。

今までの私は、子どもの気持ちに寄り添うものの感情移入しすぎて自分も一緒に落ち込んでいました。この研修会に参加してこれから、自分の立ち位置や助けを求める事をしようと思います。

また、研修会で出会った職員の方に案内して頂き、夢舞台とくりの家さんの見学をさせて頂きました。夢舞台さんは開設した当時から8年間職員が変わっていないということに大変驚きました。OB、OGの繋がりも強くアフターもしっかりできているという事に感動しました。くりの家さんは、何があっても子どもの事を受け入れる大黒柱の様な存在が子ども達に必要であることを学びました。今後、行き詰まってしまい抜け出せない時があるかもしれないけど、周りがサポートし合える事や、不安を出せる関係を築けば乗り越えられない壁なんてないと強く思いました。貴重な体験、本当にありがとうございました。

「女性スタッフ研修に参加して」

未来の杜（千葉県） 平安 明希

今回の女性スタッフ研修に参加して、「より良い援助のために」というテーマのもと、人と関わる仕事をする人間として、自分は人としてどうなのかという事を考える貴重な機会になった。

性別役割分業についての話は、以前から関心があったこともあり特に興味を持った。日本では昔から親しまれているアニメがある。「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」すべてに共通点がある。それは、母親が専業主婦ということだ。女性は家事をして当たり前という考え方が知らず知らずのうちに子どもの頃から刷り込みされているように思う。男は青、女は赤、ピンクなどの決めつけや、“男のくせに” “女なのだから” などという決めつけ、価値観の押し付けで傷つく人もいないのではないだろうか。もちろん、身体的な能力の違いによって得意、不得意はあると思うが、私はそれとは関係なく一人ひとりに、得意不得意分野はあるし、あってもよいと思う。女性は掃除や料理をする、男性は対外的な交渉をする等の性別による役割分担の考え方がなくなり、子どもに対しても、職員同士でも、個性を互いに尊重したり助け合ったりすることによって、信頼関係が築かれるのではないだろうか。

自己覚知についての話も、改めて勉強になった。自分を知ることは支援者にとって必要なことだ。自己覚知することによって自分に余裕が無くなってしまった時、感情的にならずに人と接することができるし、自分の価値観を押し付けずに済む。私はそれが出来ない時もあるので反省ばかりだが、自分を過小評価してしまっていると感じる時は周りに助けを求めている。自分の普通は相手の普通ではなく、価値観が同じ人間はいないということを忘れてはいけないし、自分もつ差別意識にも気付いていきたい。色々な出来事に対して、なぜ自分はこのように感じやすいのかと考え始めると尽きないが、人と関わる仕事をしている以上、色々な意見、考え方に触れ、自分の人間性を磨く作業を怠らず学び続けていきたい。

傾聴についても改めて学び直したいと思った。相手の気持ちを“分かる”ことはできないが、少しでも汲み取れるよう、背景を考えたり些細な言動に注意したり、～かもしれない、と想像し関わり方を模索していきたい。

物的環境、人的環境のどちらも大切であり、特に、子どもの一番身近な大人として、支援者の人的環境としての存在がとても大切であると考えている。大人が間違っただけをすれば謝り、人を頼り、相手を尊重して関わる姿を通して、子どもが人と人との繋がりを大切に、人が好きだと思える経験ができるような支援を、私ができる範囲でしていきたい。

【山形県 シンポジウム開催報告】

月日：平成 30 年 10 月 11 日（木）13：30～16：30

会場：山形市保健センター視聴覚室

主催：特定非営利活動法人 山形の社会的養護を考える会

次第：

- ・「自立援助ホームの今」 法人代表理事：佐久間 美智雄 氏
- ・講演「自立援助ホームの社会的役割」
北海道 自立援助ホーム ふくろうの家 高橋 一正 氏
- ・シンポジウム
シンポジスト 卜蔵 康行 氏（日本ファミリーホーム協議会 会長）
荒井 聡 氏（児童養護施設双葉荘 荘長）
野原 知子（栃木県自立援助ホーム マルコの家 ホーム長）

山形県
シンポジウム報
告

山形県内初の自立援助ホーム みどりヶ丘が開設されて3年目。

今回、社会的養護関係機関、地域の方々に自立援助ホームへの理解を深めていただき、機関連携の強化を目的にシンポジウムが開催されました。

102名（関係者発表）の方が来場され、主催者、講演者からは「自立援助ホームの歴史」「自立援助ホームの役割と柔軟性」について、シンポジウムでは「ファミリーホーム、児童養護施設、自立援助ホームが生活の中で大切にしていること」等について発表されました。会場には社会的養護関係機関だけでなく「新聞記事を見て申し込んだ」という方も多く、熱気に溢れたものとなりました。

今後、「みどりヶ丘」が困難を抱えながらも懸命に生きる青少年のためにいかに、その力を発揮してくださるよう祈念しております。

今回のシンポジウムの開催は、東北・北関東ブロックの「新規開設ホーム支援」「ブロック研修」の一環として行われました。

広報委員会では、各ブロックの取り組み情報をお待ちしております。

子どもの自立助ける「ホーム」の役割理解
山形でシンポジウム
保護者がいないなど、社会的な養護を必要とする子どもたちの自立支援をサポートする「自立援助ホーム」の役割について理解を深めるシンポジウムが11日、山形市保健センターで開かれ、関係機関と連携の必要性を再確認した。

自立援助ホームは、義務教育終了後、児童養護施設などを退所し、就職する子どもたちの日常生活の援助や相談などを行い社会的自立を促す場所として、全国各地に設けられている。

シンポジウムは、北海道や栃木県の自立援助ホーム、宮城県の里親会、県内の児童養護施設の代表らがパネリストを務め、問題点や課題などについて議論。一人一人のニーズに対応できる柔軟性を生かし、発達障害や心身の不調を抱えているなど多様なケースに

形市保健センターで開かれ、関係機関と連携して適切に支援していくことが「大切」と意識を共有した。

県内で唯一、山形市蔵王半郷に開設されている自立援助ホーム「みどりヶ丘」を運営するNPO法人山形の社会的養護を考える会（代表理事・佐久間美智雄）が主催。県内外の関係者約100人が聴講した。

平成 30 年 10 月 12 日
山形新聞 朝刊

「ホーム開設周年祝い」が新設されました！

当協議会では開設から 10 周年毎に対象ホームに対し感謝状と祝い金を贈呈することと致しました。今年度該当するホームは 1967、1977、1987、2007 年度開設のホームです。ご不明な点につきましては、当協議会事務局までお問合せ下さい。

平成 30 年度 春の叙勲において大阪府の自立援助ホーム ボ・ドームの杉田 善久氏がその功績を認められ「瑞宝双光章受賞」を受賞されました。

「児童福祉に永年携わってまいり、このたび瑞宝双光章を受賞しましたことは、感激の極みであります。これもひとえに関係各位の皆様、利用者の皆様、とりわけ施設職員の温かいご支援・ご指導があればこそと、改めて感謝申し上げます。四十五年余の間、大阪市内をはじめ全国の施設関係者との良い出会いがあり、私共は、平成十八年より自立援助ホームを開設して以来、今の時代に大変重要な施設として位置づけをされています。今後、受賞を契機として、微力ながら、児童福祉の増進に精進してまいりたいと思います。

全国の自立援助ホームの皆様方のご多幸とご活躍を心よりお祈り申し上げます。」
杉田 善久

「採暖費」支弁決定

先のホーム長研修会でも報告がありましたが、今年度より事業費における「採暖費」の支弁がなされます。請求は 10 月から 3 月までの 6 か月となりますので、請求漏れのないよう、ご注意ください。
(請求内容の詳細は、管轄県の事務担当者にお問い合わせください)

「全国自立援助ホーム協議会 25 周年記念～全国ホームガイド～」 鋭意作成中

平成 22 年に作成された「自立援助ホーム概要」ですが、全国自立援助ホーム協議会発足 25 周年を記念し「全国ホームガイド」として新たに作成する運びとなりました。ご多忙の中での原稿の作成協力、またブロック長の皆様には原稿の取りまとめにもご尽力いただきありがとうございました。お陰様で完成間近！
名古屋市で開催される全国大会で皆様にお配りする予定です。

【編集後記】

名古屋で開催される全国大会において、25 周年の記念誌が発行されます。広報委員会編集の、その名も『全国ホームガイド』です。約 8 年前に発行された、全国自立援助ホーム概要のリニューアル版です。現状の約 160 か所のホームが、カラー写真付きで紹介されています。ホームの特徴や特色が、色濃く映し出されているのではないのでしょうか。皆様のご協力に感謝です。全国大会時に配布される予定です。皆様、お楽しみに!!

広報委員長 新井 秀親